

姫路市におけるネットワークの現状分析

① SWOT分析による姫路市のネットワークの現状

< SWOT分析とは >

組織が有する「内部環境」と組織を取り巻く「外部環境」という2つの側面から現状を把握し

強み、弱み、機会、脅威の4つのカテゴリで要因分析し、今後の戦略方針や改善策などを立案するために行う診断手法です

Strengths

S

強み

- 医療情報連携のあり方研究会の発足
- マイナポータルを活用している
- 新県立病院が設置される
- 医師会、基幹病院との連携体制がある
- 基幹病院が5つある
- 出務医の確保等の柔軟な連携
- 県内に「h-Anshinむこねっと」、「あわじネット」等の医療連携システムが運用されている

Weakness

W

弱み

- 県内において運用されているシステムが、立ち上げ目的等の違いから異なっている
- 播磨姫路圏域で見れば医師数が不足している
- 新県立病院設置後の病院間連携について協議中
- 地域により夜間対応ができる病院に差があり、搬送にも時間を要する
- 救急医療体制に課題がある
- 新型コロナウイルスの影響で市、病院共に財源が不足している

内部環境

Opportunities

O

機会

国の動向、社会の現状

- 総務省が「医療等分野におけるネットワーク基盤利活用モデルの調査研究」を実施
- 厚労省による「働き方改革」の推進
- 医療情報システムの安全管理ガイドライン
- 電子カルテの標準化
- 保健医療情報を全国の医療機関等で確認できる仕組み
- PHRの推進のための包括的な検討
- データヘルス改革

Threats

T

脅威

社会的な問題

- 2025年問題など超高齢社会、本格的な人口減少社会の到来、生産年齢人口の減少
- 地域医療構想
- 新型コロナウイルスなどの災害
- 医師の働き方改革に伴う勤務時間の見直し
- サイバーセキュリティ対策、個人情報の取り扱いなど
- 導入された医療情報連携システムの活用度の低さ

外部環境

①-1 姫路市の強み(S)や社会の機会(O)を活かす

Strengths

S

強み

- 医療情報連携のあり方研究会の発足
- マイナポータルを活用している
- 新県立病院が設置される
- 医師会、基幹病院との連携体制がある
- 基幹病院が5つある
- 出務医の確保等の柔軟な連携



Opportunities

O

機会

- 総務省が「医療等分野におけるネットワーク基盤利活用モデルの調査研究」を実施
- 厚労省による「働き方改革」の推進
- 医療情報システムの安全管理ガイドライン
- 電子カルテの標準化
- 保健医療情報を全国の医療機関等で確認できる仕組み
- PHRの推進のための包括的な検討
- データヘルス改革

■ 課題1

医療・介護連携の重要性に対応した医療情報連携システムの構築

- Human Bridgeシステムを活用した所では、カルテの情報共有を行うことでのメリットはあるが、しつかりとしたカルテの記載を行うことが必要となるため、導入施設の広がりが少ない。(市内医療機関は6施設)
- 医師会では、医療・介護部分の連携について協議を進めている。

①-2 姫路市の弱み(W)を姫路市の強み(S)や社会の機会(O)で克服

Weakness

W

弱み

- 県内において運用されているシステムが、立ち上げ目的等の違いから異なっている
- 播磨姫路圏域で見れば医師数が不足している
- 新県立病院設置後の病院間連携について協議中
- 地域により夜間対応ができる病院に差があり、搬送にも時間を要する
- 救急医療体制に課題がある



Strengths

S

強み

- 新県立病院が設置される
- 医師会、基幹病院との連携体制がある
- 基幹病院が5つある
- 県内に「h-Anshinむこねっと」、「あわじネット」等の医療連携システムが運用されている

Opportunities

O

機会

- 総務省が「医療等分野におけるネットワーク基盤利活用モデルの調査研究」を実施
- 厚労省による「働き方改革」の推進
- 保健医療情報を全国の医療機関等で確認できる仕組み

■ 課題2

全国ネットワークを通じた医療情報の共有による、迅速かつ適切な医療サービスの提供

- 播磨姫路圏域から幅広く患者を受け入れるための、広域的な医療情報連携システムが必要。
- 患者の増加に伴う負担や、地域より異なる課題がある中、限りある医療資源を適切に提供していくために、医療情報の共有により現場の負担を軽減し、ミスなく適切でより素早い判断を可能にすることが重要

①-3 姫路市の弱み(S)や社会の脅威(T)を社会の機会(O)で克服

Weakness

W

弱み

- 県内において運用されているシステムが、立ち上げ目的等の違いから異なっている
- 新県立病院設置後の病院間連携について協議中
- 地域により夜間対応ができる病院に差があり、搬送にも時間を要する
- 新型コロナウイルスの影響で市、病院共に財源が不足している

Threats

T

脅威

- サイバーセキュリティ対策、個人情報の取り扱いなど
- 導入された医療情報連携システムの活用度の低さ



Opportunities

O

機会

- 総務省が「医療等分野におけるネットワーク基盤利活用モデルの調査研究」を実施
- 保健医療情報を全国の医療機関の等で確認できる仕組み
- PHRの推進のための包括的な検討

■ 課題3

県内ネットワークの連携とPHR連携の検討

- 県内において運用されているシステムは異なっており、立ち上げた目的や参加している医療機関が異なっている。
- 全国レベルの情報流通の実現を目指すことが求められている中で、県内におけるシステム運用との連携について検討する必要がある。(新県立病院の設置に当たって検討)
- 初期投資に財源をかけられない状況がある

②姫路市がめざす医療情報連携に向けた現状課題と視点

現状課題	国が示す情報連携				目指す姿に向けた視点
	医療介護連携	レセプト情報連携	調剤情報連携	EHR - PHR連携	
1 医療・介護連携の重要性に対応した医療情報連携システムの構築					
<ul style="list-style-type: none"> ● Human Bridgeシステムを活用した所では、カルテの情報共有を行うことでのメリットはあるが、しっかりしたカルテの記載を行うことが必要となるため、導入施設の広がりが少ない（市内医療機関は6施設）。 		○			<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢化の進展に伴い、地域における医療・介護連携の重要性が増している。多施設、多職種が連携し、共有する情報などを検討 ● カルテの情報共有にあたって、カルテの記載方法を検討
<ul style="list-style-type: none"> ● 医師会では、医療・介護部分の連携の協議している。 	○			○	
2 全国ネットワークを通じた医療情報の共有による、迅速かつ適切な医療サービスの提供					
<ul style="list-style-type: none"> ● 播磨姫路圏域から幅広く患者を受け入れるための、広域的な医療情報連携システムが必要。 	○	○		○	<ul style="list-style-type: none"> ● 各地域にネットワークを構築し、個々の地域ネットワークに蓄積された医療情報を、全国ネットワークを通じて他の地域ネットワークで閲覧できるシステムを検討
<ul style="list-style-type: none"> ● 患者の増加に伴う負担や、地域より異なる課題がある中、限られた医療資源を適切に提供していくために、医療情報の共有により現場の負担を軽減させ、ミスなく適切でより素早い判断を可能にすることが重要 	○	○		○	
3 県内ネットワークの連携とPHR連携の検討					
<ul style="list-style-type: none"> ● 県内において運用されているシステムは異なっており、立ち上げた目的や参加している医療機関が異なっている。 	○	○		○	<ul style="list-style-type: none"> ● 兵庫県内での医療情報システム連携・共有化に向けて、県・他市町村との検討が必要（加古川地域保健医療情報システム、北はりま絆ネット、阪神医療福祉情報ネットワーク、淡路地域医療連携システム）
<ul style="list-style-type: none"> ● 全国レベルの情報流通の実現を目指すことが求められている中で、県内におけるシステム運用との連携について検討する必要がある。（新県立病院の設置に当たって検討） 	○	○	○	○	
<ul style="list-style-type: none"> ● 初期投資に財源をかけられない状況がある 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ● PHR連携の必要性等を検討